歴史を今に伝えて

文化財保護課・TEL224-6097

砂久保稲荷神社本殿 付天保十四年棟札

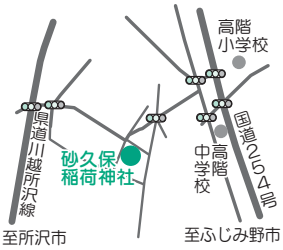
砂久保は正保二年（一六四五）から開発が行われ、砂久保稲荷神社はその開発に伴い、鎮守として祭られたのが始まりといいます。

本殿は、やや小型の一間社流造で、屋根は板葺です。江戸彫を多用した本殿の一つですが、ところどころに個性的な細部意匠が用いられています。その中で特に珍しい意匠は、稲穂とひょうたんのように見える、破風に付けた懸魚です。身舎壁面を飾る江戸彫彫刻は、左側面がくわを担ぐ童子、右側面が雲中を駆ける麒麟、背面が稲積の周りを飛び交う狐です。また、脇障子には唐獅子と牡丹が彫られていますが、背面からも彫られている、ていねいな造りになっています。

造営年代は棟札から、天保十四年（一八四三）と判明しています。棟札には各種職人の名が記され、大工棟梁は並木村の篠澤定六、小工は今福村の仙造、絵図師は藤馬村の吉田市之丞、石工は藤馬村の清吉と砂新田の牛伝金左エ門です。棟札に絵図師の名前が記されるのは珍しい事例です。昨年八月十日に、市指定文化財になりました。

砂久保稲荷神社本殿

本殿右側面の彫刻



市税納期のお知らせ

6月は、市県民税第１期の納期です。

忘れずに納めましょう。

問い合わせ…収税課収税管理担当
TEL224－5686

編集後記 どんぐり

ことしは平年より６日早く、６月２日に関東地方が梅雨入りしました。湿気の多さだけでなく、寒暖の差も激しいこの季節。体調を崩さずに夏を迎えたいと思います▶雨といえば、最近カタツムリを見なくなりました。子どものころは、触れると殻に引っ込む動きがおもしろくて、長い間カタツムリ相手に遊んでいたことも……。しばらく記憶をたどっていたら、窓の外から学校帰りの子どもたちの、雨音にも負けない元気な声が聞こえてきました。（YA）

世界の国から、こんにちは！

マレーシア／大沢ゆきさん

出身は、クアラルンプールの近くにあるクランです。海のそばに位置し、工業団地があります。

16年前に日本に来ました。当時のマレーシアは、国の政策で日本の文化を取り入れていました。日本のドラマや映画を見て、日本への強いあこがれを持ち、いつかは留学したいと思い、実現させました。

川越に住んで７年になります。蔵造りの町並みは、雰囲気が大好きで、川越に住んでいても、観光をした気分がします。外国人に自慢できる所だと思います。

＊外国籍市民の皆さんを対象にした催しは14ページ・16ページ、相談は26ページをご覧ください。

国際交流課・TEL224－5506

広報川越 1177
■発行日／平成20年６月25日（毎月10日・25日発行）
■発　行／川越市　〒350－8601埼玉県川越市元町１丁目３－１　http://www.city.kawagoe.saitama.jp/
■編　集／広報室　TEL049－224－8811（代表）・FAX049－225－2171
■印　刷／㈲新広社

広報川越は再生紙を使用しています